月曜 スマイル　火曜 老舗探訪　水曜 達人　木曜 メディカル　金曜 東海の同窓会　土曜 クリエーティブライフ

わが友 わが学び舎　東海の同窓会

東海大学同窓会愛知支部

HP刷新で「母校」支援へ

岐阜・三重と連携強化も

東海大学は、通信省の技官であった松前重義博士が、1936年に東京・武蔵野市に創立した私塾「望星学塾」が原点。松前氏は、科学技術者の育成を目ざして42年に学園を創立し、静岡県清水市（当時）に航空科学専門学校を開学したのを前身として46年に東海大学を創立した。

55年に東京・渋谷区に移転して以来、積極的に幅広い分野で学部・学科・専攻を設置し、東京に本部を置く大学となった。「東海」とは、アジアの東にある世界最大の海洋である太平洋を表している。

東京、神奈川、静岡、熊本、北海道に8キャンパスを置き、全国に3短大、1付属高等学校、6付属中学校、1付属小学校、4付属幼稚園、それに首都圏に4病院を擁する総合教育研究機関となった。国際交流や社会貢献においてもスケールメリットを生かした多彩な活動を展開している。

ビンゴゲームも楽しんだ総会後の懇親会

FM放送の実用化や通信教育の導入、海洋分野の教育などにいち早く取り組み、今日では航空機パイロットを養成するなど常に先駆的な教育を展開している。教育・研究成果の社会還元でも早くから制度を整え、近年では文部科学省「地（知）の拠点整備事業」の採択を受けて全国規模での地域連携活動も積極的に推進している。

創立者の経験から生まれた「教育の指針」が建学の精神とされている。「若き日に汝の思想を培え・若き日に汝の体軀を養え・若き日に汝の智能を磨け・若き日に汝の希望を星につなげ」の言葉は、創立以来、色あせることなく学生たちに受け継がれている。

東海大学は2017年に創立75年を迎える。長い歴史と幅広い分野の学部を展開していることから、卒業生は芸能界やスポーツ界を含めた多彩な分野で活躍している。有名人では、プロ野球・巨人軍監督の原辰徳氏、国民栄誉賞を受賞した柔道の山下泰裕氏、小説家・エッセイストの夢枕獏氏がいる。

東海大学同窓会は全国12ブロック、63支部を設けている。また、51学部・学科同窓会が設けられ、海外にも11支部がある。この他にも企業内同窓会、経営者の会などがあり、総会員数は約37万人を数える。

愛知支部は1982年に東海支部から独立して設立。会員数は4527人（14年度）。愛知支部の主な卒業生は、小堀勝啓CBCテレビ特別職アナウンサー、創業明治40年の大甚本店役員の山田泰弘氏、水野久名古屋学院参与、石黒正志愛知トヨタ自動車取締役。なお、三重支部では強力修ゴーリキ代表取締役、岐阜支部では高殿尚岐阜県議会議員がいる。

愛知支部は、2年前に大井純氏が支部長に就任した。最近、同窓会員の高齢化が進むとともに若い卒業生の参加が少なくなっているため、「面白くなければ同窓会ではない」を合言葉に時代の変化に対応した新感覚で支部を運営している。

情報化時代を踏まえた新企画として、支部のホームページに「メリットボックス」を設けた。登録した同窓会員が各会員と勤務先のアピールを掲載し、会員同士の交流活発化とともにビジネスマッチングの窓口に活用している。

今後は、同窓会員とその家族を対象とした企画や、岐阜・三重支部との連携企画も計画していく方針でいる。

同窓会総会は毎年1回開催されている。2015年度の愛知支部総会は11月14日に名古屋東急ホテルで開催する予定。

東海大学の湘南キャンパス

■東海大学同窓会
愛知支部・大井純支部長
（1970年度文学部日本文学科卒）
大井企画代表取締役

2年前に愛知支部長に就任しました。若い卒業生に総会に来てもらうために新しいホームページをつくりました。総会を「面白くて楽しい」内容にしようと、大学の著名な先生によるアジア地域の国交裏話の講演会、地元放送局で活躍しているOBのスピーチ、ビンゴゲームなどを企画しました。

今年の総会も「新しい出会いの実現」をめざしています。多くの同窓生の参加を待っています。まずホームページにアクセスしてください。

■連絡先
東海大学同窓会愛知支部事務局＝稲沢市竹腰西町36、電話0587・36・1775

昨年の「東海大学同窓会愛知支部総会」に参加した同窓会員

総会で行われた講演会

マイウェイ my way

地元局より早く全国放送に

矢場とん会長 鈴木孝幸
女将 鈴木純子

テレビ取材 13

80年代は「いつ、つぶれてもおかしくない感じ」だったのです。ファミリーレストランがブームになり、専門店のお客さんは減っていました。中区役所の店も赤字続きになってきたので、1982年（昭和57年）に閉店しました。

私（会長）が社長に就任したのが1980年（昭和55年）です。本店では母が実権を握っていましたが、本店のお客さんも減っていました。

そのころ、私（女将）も給料は半分しかもらえませんでした。子育てにも忙しく、80年代は店の改革に本腰を入れて取り組むこともできませんでした。でも、いつかは矢場とんにお客さんが戻ると信じていました。必ず手作りの店、専門店の時代が来ると。

バブルが弾けた頃から、テレビ番組も制作費が安く視聴率を取れるグルメ番組が増えてきました。地元名古屋のテレビ局より先に東京や大阪のテレビ局が矢場とんに取材に来ました。

初めての全国ネットでの紹介は、テレビ東京のクイズ番組「クイズ地球まるかじり」でした。矢場とんのみそかつ丼を取り上げてくれたのです。最初はナゴヤ球場に取材に来たのですが、球場にはカメラが入れず、本店で取材しました。その影響で全国からお客さんが来てくれるようになりました。次第に地元名古屋のテレビ局も取材に来てくれて、地元のお客さんも戻ってきました。全国各地からお客さんが来てくれるのにプラスチックの器や玄関が汚くてはいけません。この頃からようやく私（女将）の意見が取り入れてもらえるようになりました。

そしてみそかつは「ナゴヤ球場名物」から、いよいよ本格的に「名古屋名物」になっていったのです。

また、ジャイアンツなど、ドラゴンズ以外の球団の番記者がナゴヤ球場に来ると、必ずみそ串かつを差し入れました。私（会長）は計算ずくではなく、彼らともすぐ仲良くなりましたが、結果的には彼らが矢場とんの名を広めてくれることになりました。

厳しかった80年代当時の本店